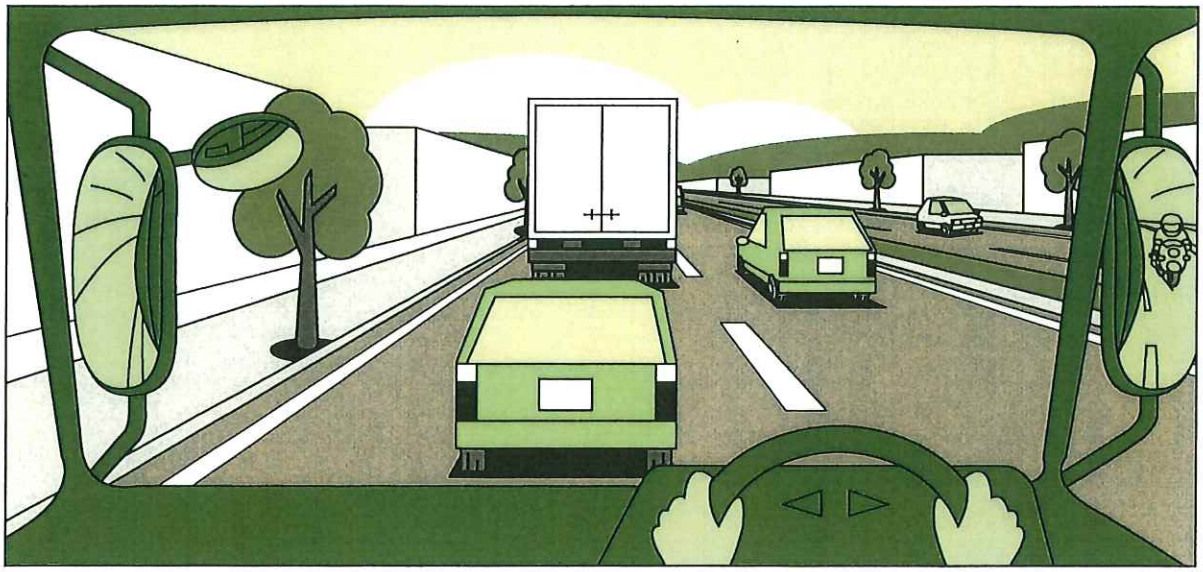
危険予知訓練（KYT）シート：交通事故防止編

あなたならどうしますか？

〔第 177 回〕「２車線の幹線道路」

状況

あなたは、２車線の幹線道路を走行しています。自車と前方のトラックの間には乗用車がいます。また隣の車線の後方には二輪車が走行しています。この場面にはどのような危険がありますか。また、危険を避けるためにはどのような運転をすればよいでしょうか。考えてみましょう。



◆どのような危険がありますか？

◆どのような運転をすれば危険を避けることができますか？

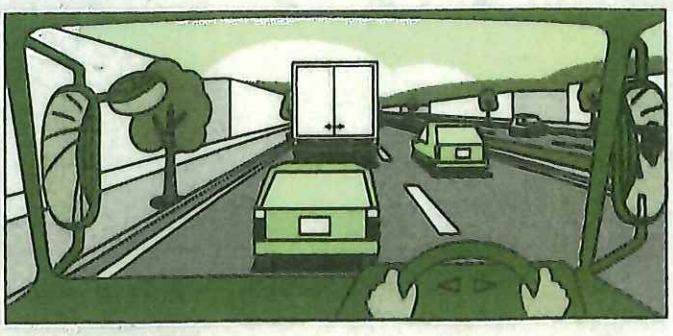
（解説・５面）

（4面）

危険予知訓練（KYT）シートの解説

▶交通事故防止編

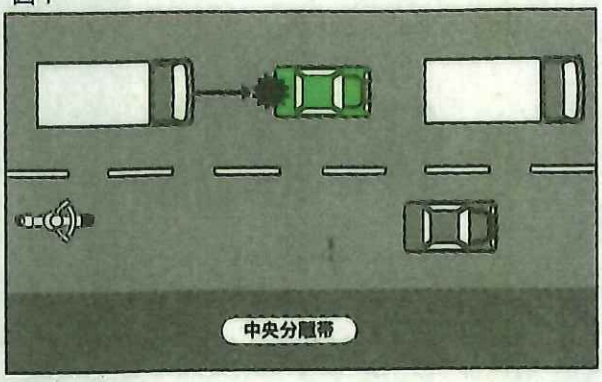
あなたは、2車線の幹線道路を走行しています。自車と前方のトラックの間には乗用車がいます。また隣の車線の後方には二輪車が走行しています。この場面にはどのような危険がありますか。また、危険を避けるためにはどのような運転をすればよいでしょうか。考えてみましょう。



どのような危険がありますか？

①前方のトラックに注意が偏り、直前の乗用車を見落として衝突する危険があります（図1）。
②減速した乗用車に追突する危険があります（図2）。
③乗用車を追い越そうと車線変更した際に、走行してきた二輪車と衝突する危険があります（図3）。

図1



どのような運転をすれば危険を避けることができますか？

①自車の前方にトラックが走行している時は、ドライバーの視線は前方のトラックに向いてしまいがちになり、直前の乗用車の見落としに繋がります。前方のトラックがスピードを上げた際、自車もスピードを上げたりして、直前の乗用車に追突する事故が発生しています。自車と前方のトラックの間に乗用車が走行している時は、意識的に車間距離をしっかりとっておきましょう。また、青信号で発進する時にも、直近の乗用車を見落としがちになります。遠くだけでなく、自車の直前にもしっかり注意を向けてください。

②前方にトラックが走行しているため、前方の状況がはっきりわかりません。漫然と運転していると、減速した前車に対応できず、追突する危険があります。特にトラックのアイポイントが高いことから、車間距離が空いていると錯覚して、知らず知らずのうちに車間距離を詰める傾向があります。トラックが車間距離を詰めてくると、一般ドライバーには「あおり運転」と誤解されるおそれもあります。前車との車間距離はしっかり確保してください。

③この場面では、ミラーに二輪車が映っています。乗用車を追い越そうと安易に車線変更した場合、後方から走行してきた二輪車と衝突する危険があります。二輪車は車体が小さいことから、見落としやすいだけでなく、スピードも正確に判断することは困難です。また、二輪車はバランスを崩しやすく転倒の危険もあるので、車線変更時、ミラーに二輪車を確認した時はその動静をしっかり見きわめましょう。

図2

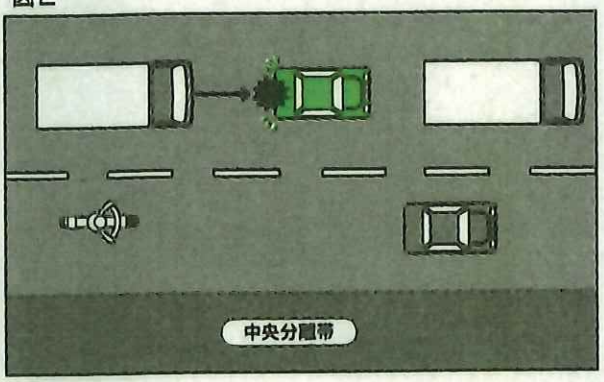
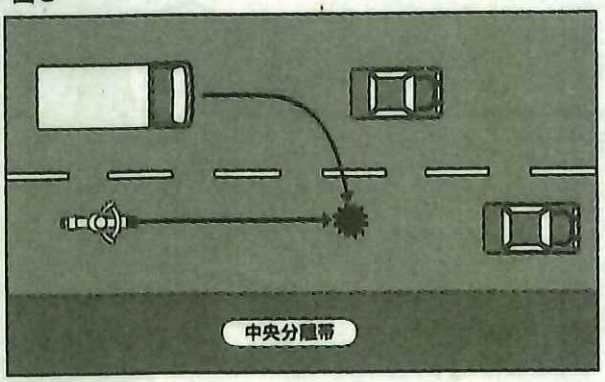



図3